

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100011		
法人名	社会福祉法人九戸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームおりつめ		
所在地	〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内8地割15番地1		
自己評価作成日	平成21年12月29日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393100011&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0393100011&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター3F
訪問調査日	平成22年1月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安全・安心・快適に」というスローガンを職員全員で共有し、利用者のしたいことや、できることを一人ひとりのペースに沿って支援している。また、地域住民の方とのコミュニケーションも大切にし、散歩や花植え、草取り等の活動を通し近隣の方々との日常的な交流や地域行事には、積極的に参加するようにしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の中にゆったりと、純和風平屋の落ち着いた建物である。民家とも商店街とも近い。役場等公共機関も近く、更に田園風景も広がる恵まれた環境にある。室内は中庭・回廊に面し、自宅で過ごされたような居心地のよさを感じる居室や食堂・和室・トイレ等、利用者の生活はもちろん、介護しやすい設備と空間は良く考えられ活用されている。「安全・安心・快適に」というスローガンを職員全員で共有し、利用者一人ひとりの想いを大切に笑顔あふれる暮らしのケアを基本としている。地域住民との交流も行事への参加やホームの花植えや草取りを手伝って貰うなどいい関係にある。利用者の外出は、買い物の希望のあるとき、ドライブや家族のもとへの実家訪問等いろいろ行われている。職員も資質向上のための研修に毎月取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念は廊下に掲示し、誰でもいつでも見ることができるようになっています。また月に1回職員会議をし、日々実践に結び付けたり、会議の次第に理念を書いて共有しています。また、広報や事業年報を通じて地域住民との理念の共有に努めています。	理念は、廊下・台所・当直室等、いつでも目に触れる所に掲げ、利用者への関わりに活かせるようにしている。また、定期的な会議・広報でも共有して、事業所だけでなく地域住民にも理解してもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、食材等の買い物に出掛けています。自治会の一員として回覧板が回ってきたり、地区の行事に参加しています。グループホームの夕涼み会に地域の方を招待したり、また近所の方が散歩途中で休んでいたり、地域の方と交流を持っています。	自治会に加入することで、地域の情報が伝わりやすくなった。地区のイベントにも参加したり、逆に、ホームの行事に参加して貰ったり、草取りの手伝い等もしてもらい、交流が深まっている。買い物に出かけた時は、気軽に声をかけてもらい、利用者には良い刺激になっている。	前回の課題は改善されている。引き続き、交流の機会を深めていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の買い物に利用者と一緒に出掛けたり、ボランティアや地域の行事に参加することを通し、認知症の人の理解や支援方法を理解してもらうようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に定期的に会議を開催し、利用者の状況や行事、または職員の研修会の実施報告を行っています。また委員の方から意見やアドバイス、地域の情報を得ています。	運営委員会は、定期的に充実した内容の会議が開催されている。更に、地域への理解を深めるためには、行事等と合わせ、オブザーバー(消防所・保育園関係等)の参加の機会も必要と感じた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回の地域ケア会議に参加し、情報交換をしています。運営推進会議に地域包括支援センターの職員もメンバーになっています。	毎月のケア会議・定期の運営会議に、双方が参加することで、情報交換・共有になっている。必要時、電話や出向いての対処と気軽に連携しやすい関係性でもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、職員の意識を高めています。帰宅願望のある利用者には、一緒に散歩やドライブをしています。	施錠はしていない。安全第一に考えながら、利用者の動きに合わせて、見守りながら自由にさせている。帰宅願望のある人などには、一緒に付き添い、満足して頂くようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待の出張研修に参加し、その報告をかね職員全員で勉強会を行い、職員の意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を行っています。現在は権利擁護制度の必要な利用者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、説明を行っています。入所後も相談に応じています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、意見を聞くようにしています。家族の意見や要望等あった時は、その都度聞くようにしています。また職員会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいます。	利用者・家族の気持ちを汲んで意見・要望は、その都度、受け入れるようにしている。例えば、利用者から寒い・〇〇を食べたい、家族からは、歩けなくなると困るので…との要望で、おりつめ荘の専門職に相談、リハビリメニューを用意し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、職員会議で意見を出し合う機会を設け、運営に反映させています。管理者は月1回の運営会議に参加し、事業所から出た検討事項等話し合っています。	毎月の会議で意見・要望を出している。利用者への対応で、職員により意識の違いが見られたこともあったが、話し合いで意思統一をし、見守りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当、人事考課等を取り入れています。また、年2回所長との面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修を行っています。また、法人内のボランティアも行っていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場対抗ソフトバレーに参加し、他施設との交流をしています。 県GH協会に加入し、研修会に参加しています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に会話を持ち、その方の気持ちを考え把握するようにしています。その中で、利用者の要望や訴えは本人の納得がいくまで話を聞き、受け止めるよう取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方の要望については、面会時や行事の時、また様子伺いの電話が来た際に聞くようにしています。要望に応えられるよう、職員間で話し合い、対応できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーとの連絡を密にとっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で仕事の役割ができ、食事の準備や片付け、洗濯物干しなど一緒に行っています。その中で、利用者の方から学ぶことも多くあり、支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で、利用者の様子を報告し、利用者・家族との関係を深められるようにしています。 夕涼み会等の行事では、家族の方にも参加して頂き、一緒に楽しむことができます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅訪問したり、近所への買い物や馴染みの床屋へ行っています。散歩を通し、知り合いの方と会話をすることで喜んでいただいています。また、知り合いの方が面会にに来て下さいます。	自宅・家族を忘れないために、自宅訪問したり、近所に買い物に行って、気軽に声をかけて頂き、馴染みの人との交流を維持継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話の仲介や、レク活動を通してコミュニケーションを大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、担当ケアマネに情報提供しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から情報収集するよう努めています。 毎月全員のカンファレンスを行い、職員間で共有するよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントの他に、日常の会話の中からその方の生活の暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の過ごし方については、本人の意向も取り入れ、自由に過ごせるよう対応しています。その中でできること、できないことを把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方の希望や意向を聞きそれを踏まえ、毎月カンファレンスを行い、生活援助計画を作成しています。医療面や栄養面についてのアドバイス等は必要に応じて、母体施設(特別養護老人ホーム折爪荘)の看護師や栄養士からの意見も聞き、計画に反映させています。	職員一人が、1~2名の利用者を専門担当し、本人や家族の希望・意向を取り入れながら、実施出来ることを意識した介護計画を作成している。更に、みんなで話し合い、随時、計画の見直しをしている。職員は、利用者の個別の担当制にやりがいを感じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状況に変化が見られる際や、入退院等により状況に変化があった場合には、その時の状況に応じて見直しを行っています。基本的には3カ月の期間で見直しを行っているが、毎月職員間での話し合いの機会を持ちながら、利用者の日常生活に変化がないかの確認を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により、自由に外泊や家族が宿泊できるよう、柔軟な対応をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防へは、緊急時の協力をお願いしています。行事の内容により、ボランティアの協力もお願いをしています。民生委員の方には、運営推進委員をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が利用前からのかかりつけ医を希望し、継続して受診しています。定期通院については契約時に家族の方に対応をお願いしており、家族等が行っています。また交通手段のない家族には、地域が限定されますが、送迎の援助を行っています。	全ての利用者が、それぞれのかかりつけ医を受診している。その際は、家族が付き添い、利用者とのコミュニケーションを深める良い機会にもなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の特変や異常に気づいた時はその都度、折爪荘の看護師と連絡を取り合っています。また折爪荘の看護師が定期的に来荘し、利用者の様子を見てくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人との面会をし、看護師より情報を提供していただき、退院後の対応について家族とも相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の対応は行っていません。	利用者の体調の急変時等、職員がとまどうことなく、(夜勤時も不安を感じることがないように)対応出来るよう研修会等の継続を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法、AEDの講習会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害時のマニュアルを作成しています。 非常食を準備しています。	災害対策については地域との連携、夜間を想定したり、通報システムを考えてみる等検討の継続を期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いの言葉にならないよう心掛けています。	利用者の自尊心を傷つけないように、入浴・トイレ介助のときは同性の職員が対応、関わりの中で、常に、馴れ合いの言葉や命令口調にならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床、就寝時間は個々の様子を見ながら本人に任せたり、声掛けをしております。また、着替えの衣類も本人と一緒に、本人に聞きながら選んで頂くようにしています。水分補給も何種類か用意し、選んで頂くようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れについては、一人ひとりのペースに合わせて、無理強いをしないよう心掛けています。 入浴・外出等、本人の希望があればその都度対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は、馴染みの店に行ったり、親戚の方が理髪をして下さっています。 着替えの際には好みの衣服を本人から選んでもらっています。自分でできる人は化粧もしています。外出時はお洒落しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には近所の方から頂いた野菜や旬の食材を取り入れています。料理や食事の準備、後片付けは利用者と職員と一緒に楽しみながら行っています。食事の際には、各テーブルに職員がつき、職員と利用者の会話や利用者同士の仲介をしています。また出前、買い物時に好きな物を買ってきて食べたりしています。	旬のものや買い物の時等に、目にした希望のもの等で価格も検討しながら、献立も変更することが度々ある。食材の買出し、調理・食事の準備から後始末まで利用者と職員が一緒に行い、食事を楽しむことが出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日チェックしています。摂取量が少ない時は、捕食または本人好みの物で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄、歯みがきを行っています。 週1回ポリドント洗浄しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導の他に、本人の訴えや表情・仕草を観察し、個々の排泄パターンの把握に努めています。	利用者個々の排泄パターンや言動・しぐさからサインを読み取り、トイレに誘導したり、綿パンツの利用で自立に近づけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じ、起床時の 毎食時、プルーンやヨーグルトを提供しています。 日中の運動も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後に入浴時間を設け、行事や面会、体調やその日の利用者の状況により支援しています。	本人の体調や入浴基準を参考にしながら、希望時は、いつでも入浴出来るようにしている。時折、拒否する利用者の誘導やタイミングをみんなで話し合いながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室に横になる方、部屋で休息する方、その日その時により、自由に過ごしてもらっています。夜間は、希望に応じ、電気を点け休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの処方薬の説明書を綴り、常に確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意・興味のあるもの、できることを手伝って頂くようにしています。無理強いせず、ゆっくりできるよう支援しています。。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物、希望があればドライブや散歩、母体施設(特別養護老人ホーム折爪荘)の行事へも参加しています。ドライブは近場だけではなく、遠出もしています。	敷地内や近くへの散歩、食べたいものや欲しい物の買い物、イベントへの参加、季節に応じて希望する海・家族の協力を得ながら、自宅に出向くこともあり、可能な限り外出するようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理している人、金庫管理している人がいます。買い物や移動販売の際には、自分でお金を払える方には、会計して頂くよう取支援していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、電話を掛けられるようにしています。年賀状・手紙のやりとりをしています。家族から電話が来たら、本人とも話をするようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや玄関先に利用者が生けた花を飾っています。部屋には毎月オリジナルカレンダーを貼り、共有空間のディスプレイ等の工夫により季節感を演出しています。トイレはこまめにチェックし、清潔に努めています。食堂にソファを置き、廊下に、ソファを用意し、いつでも休めるようにしています。	季節の花・観葉植物・オリジナルカレンダー・職員紹介コーナー・手作りの飾り物や置物等、季節感を感じさせたり、目の保養、ほど良い刺激になっている。目が行き届く環境の中、利用者がお気に入りの場所でゆったりと過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にソファを置いたり、廊下にもイスを用意し、いつでも休んで頂けるようにしています。和室も自由に使って頂けるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、布団等持ってきてもらっています。またベッド、家具等の配置等も利用者の過ごしやすいよう、使いやすいよう工夫しています。	それぞれが、入居(利用)前に使用していたと思われる馴染みの筆筒・テーブルやベッド、位牌等を持ち込み自宅に居る雰囲気です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレにのれんを下げ、場所が分かるようにしています。 個々の身体能力に合わせて、福祉用具の活用を行っています。		